

# 筑波サーキットで初開催となる 全日本ST1000クラス

## 21台という貴重な決勝グリッドを賭けた争奪戦が今始まる!!

“ST1000セミファイナル サバイバル・クオリファイ”

計時予選でベストタイム上位16台がまずは決勝進出。その後 予選総合17位以下のライダーによるセミファイナルレースの上位5台が決勝進出となり、21台の決勝グリッドが決定する。セミファイナルレースは土曜日に開催。そして21台による決勝レースはレース1、レース2共に日曜日に開催される。筑波サーキットで初開催となる全日本ST1000、大混戦必至のレースは土曜日から目が離せない!



2020年より新設されたクラス。筑波サーキットで行われる全日本選手権では今年初開催となる。JSB1000クラスと同様

に最新のリッタースーパーバイクによって争われるが、改造範囲が狭く、よりスタンダード（市販状態）に近いクラスとなっている。ダンロップタイヤのワンメイクとなっており、アジアロードレース選手権（ARRC）のASB1000クラスと似た規則となっており、ST600同様に交流が盛んになりそうだ。



一般公道用に生産された600ccのオートバイが中心のクラス。各メーカー開発に凌ぎを削っており、ハイパフォーマンスな車両が目白押しだ。

レギュレーションで、改造範囲が細かく制限されており、マシンレベルでの差はそれほど多く感じられない状況となっており、ベテランから若手まで実力ぞろいライダーが毎戦レベルの高いレースを繰り広げている。アジアロードレース選手権（ARRC）SS600クラスとレギュレーションが近く、ここ数年は交流が進んでいる。2015年よりブリヂストンタイヤのワンメイクとなり、よりローコスト、イコールコンディションで争われるクラスとなっている。



サーキット専用で造られた4ストローク250cc単気筒のレーサーで争われているJ-GP3クラス。

MotoGPロードレース世界選手権Moto3クラスに

直結しており、若手ライダーは、世界を目指し、ベテランライダーは、その壁になるべく同じ土俵で戦っている。トップスピードこそ大排気量クラスのマシンには劣るが、コーナリングスピードでは、それをしのぐ速さを見せるのが特徴。高いコーナリングスピードをいかに維持しながらコーナーを曲がるかという、小排気量ならではのテクニックが要求されるクラスだ。



国内のみならずアジア全体で盛り上がりを見せている4ストローク250ccスーパーバイククラス。ロードレースの底辺拡大並びに新規参入者の増加を図る重要なカテゴリーとしてスタートした。

全日本選手権のピラミッドの底辺を支える重要なクラスとして「MFJカップ」の名のもとに行われる。キッズライダーがミニバイクを卒業し、このJP250にステップアップする姿が見られる。車両価格が安く、パワーが低くミニバイクからの乗り換えが容易なことなどメリットは数多くある。



# 2021全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦 筑波大会 ST1000予選新フォーマットについて

ご観戦の皆様へ

筑波サーキットでは、6月19日（土）、20日（日）に2021全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦 筑波大会を開催いたします。昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、残念ながら中止とせざるを得なかった当大会ですが、2021年は、ロードレースファンの皆様が、より筑波大会をお楽しみいただけるよう、下記の内容で開催いたします。

## 1：全クラス決勝2レース制

筑波大会定番の、全クラス決勝2レース制を2021年も継続いたします。

## 2：ST1000予選新フォーマット

昨年から新設されたST1000クラスは、全日本選手権では筑波サーキット初開催となります。

その新設クラスを更に魅力のあるコンテンツとしてお楽しみいただくため、予選形式を従来の計時予選方式から、「計時予選+セミファイナルレース」の形式に変更し、決勝スターティンググリッドを決定いたします。

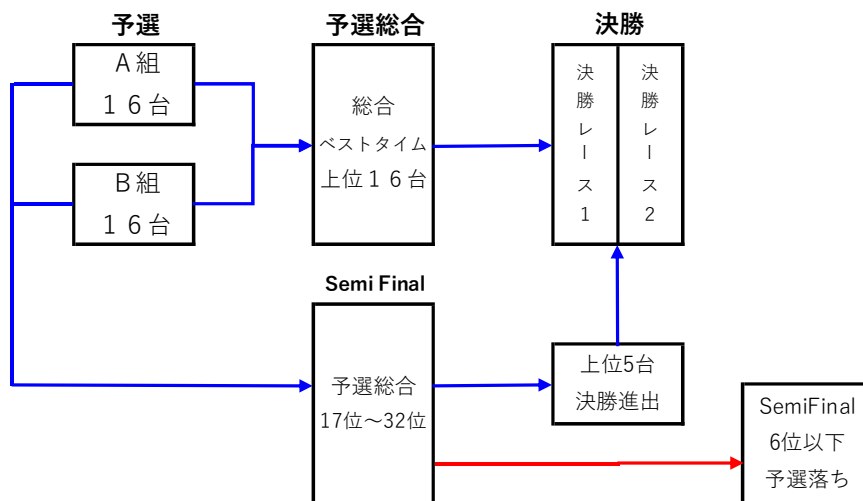
新フォーマットの概要は、下記をご覧ください。

## ST1000 予選新フォーマット概要

- ・決勝スターティンググリッド数：21台
- ・予選1組の最多出走台数：25台
- ・計時予選で決定するグリッド数：1位～16位まで
- ・17位～21位の5グリッドを、セミファイナルレースにて決定

## 2021 全日本ロードレース選手権シリーズ 筑波大会 ST1000予選フォーマットイメージ

★エントリー台数を32台と仮定した場合



※大会の情報は、筑波サーキットホームページ内、全日本ロードレース選手権シリーズ筑波大会特設ページにてご確認ください。

関係各位  
ご観戦の皆様

## **2021MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦筑波大会 ST1000予選方式変更のお知らせ**

平素は、筑波サーキットをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

筑波サーキットでは、2021MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦 筑波大会を6月19日（土）、20日（日）に開催致しますが、当初予定しておりました、ST1000クラスの予選方式を変更することになりましたのでお知らせいたします。新予選フォーマットで行われる予定であったST1000クラスの筑波開催を楽しみにいただいていた皆様には大変残念なお知らせになりましたが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

### **【変更前】**

土曜日：計時予選、セミファイナルレース

日曜日：ウォームアップラン、Race 1、Race 2



### **【変更後】**

土曜日：計時予選、Race 1

日曜日：ウォームアップラン、Race 2

タイムスケジュール確定の直前で欠場者が発生し、セミファイナルレースを実施するエントリー台数（26台）が満たせなくなった為、特別規則書に則りセミファイナルレースを実施しない形での2レース方式での開催となりました。